

[第4回]
東京都PTA協議会主催
川柳コンクール
受賞作品発表

～ 沢山のご応募ありがとうございました ～

総評

楽しく選句、選評をさせて頂きました。一句一句から社会の機微までもが伝わってくるようです。川柳は、俳句と違い風景やモノを描いて遠くにニンゲンを感じるのではなく、ニンゲンを直接描く文芸です。ので、よりリアルに社会が映し出されます。「学校」という小さな世界ですが、一人一人の姿や思いが、川柳になって現れてきました。

低学年の部では、似たような発想が多く、また、報告的な作品が多かったですが、さすが高学年になると、一人一人の個性が句に現れてきました。

一般の部では、あたたかな先生や保護者の皆様の目が、川柳という形でコトバに還元されました。いい企画だったと思います。ありがとうございました。

選者 尾藤 川柳

最優秀賞

低学年の部

海遊び 魚の楽園 仲間入り

「新島村三年」徳竹 晴治

講評

夏の海での思い出。きつと魚影のはっきりした綺麗な海に行かれたことでしょう。

この句の巧さは、十七音でただ経験を「何がどうした」と報告したのではなく、「仲間入り」と作者の心理が動きに投影されている点でしょう。生き生きした描写体からイメージが広がって伝わります。

高学年の部

マスク取り 見える笑顔は 宝物

「足立区四年」鏑木 永志

講評

コロナ禍という数年間。ともに友の素顔を見る事の出来ぬ約は、人間関係にも少なからぬ影響があったでしょう。時代の変化を捉え、「笑顔は宝」と感じた作者の目が新鮮です。川柳は、人間を直接描く文芸です。しっかりと作者は、自分と周辺社会の動きを十七音で捉えました。いい川柳センスです。

一般の部

マスクなし 先生の顔 二度見する

「足立区保護者」拓☆

講評

コロナが5類となり、マスクも必須ではなくなりましたが、今まで素顔を見た事のない先生の半顔が、勝手に想像していたものは全くの別人。このギャップは、思い込みというニンゲンのある部分を暴露。「二度見」するほど驚いたのは、コロナ明けの解放感とともに、いかに相手を知らなかったかという事へ気づいた驚きでも：

優秀賞

低学年の部

ひかる水 みんなたのしく およいでる

「江戸川区一年」うらべはると

講評

楽しそうな水遊び、または水泳の風景。「光る水」が、作者の心の反映にも見えてきます。楽しさが出んわってきますね。

高学年の部

2分だけ 演奏のために 三ヶ月

「新島村六年」小澤 清士郎

講評

学校生活の中で感じた一コマ。その「2分」が、人生にとって大きな経験となり、それに向かう邁進の時間が、きっと作者を大きく成長させてくれそうです。

一般の部

P T A マスク外せば みな初老

「江東区保護者」みちこ

講評

これも時代を捉えた一句。私ですが、結婚の年齢が高まり小学生の保護者でも「初老」が一般的に。コロナ明けと高齢化社会の一端が、P T Aの集まりにも見受けられたという発見が、作者のちょっとした驚きとして見事に一句となりました。

佳作

低学年の部

冬休み 迎春の文字 むねおどる

〔世田谷区二年〕ふーたん

講評 「迎春」という文字の視覚から「冬休み」への期待する心理が描かれました。

西一の 歌がっせんは もり上がる

〔江戸川区三年〕橋本 咲幸

講評 「西一」という具体性が、より作者の心を描き出しているように感じられます。

伝記好き 坂本りょう馬 かつこいい

〔江戸川区三年〕松原 舞音

講評 竜馬…いいですね。チョツと個人的ですが、思いの伝わってくる一句です。

友だちが ひやくにんできて いそがしい

〔世田谷区一年〕堀切 琴葉

講評 学校での生活が目には浮かびそう。人気者なのでしょう。嬉しい一句です。

ともだちと マスクをはずし はなせたよ

〔江戸川区二年〕しーちゃん

講評 マスクを外し素顔で向き合える喜び。時代を捉えたコロナ後の気分がいい。

自分の絵 顔気も過ぎて ちょっと引く

〔板橋区五年〕三浦 和

講評 自我意識が芽生えた自分への気付き。川柳を通しての自己発見も文芸の力

ざわざわと 心がざわめく 新学期

〔板橋区五年〕大久保 妃菜

講評 「ざわざわ」のオノマトベが効いた一句。感情が句から広がってきますね。

マスク取り みんなで変顔 楽しいね

〔板橋区五年〕ゆりゆり

講評 これもコロナ後の句ですが「みんなで変顔」が、その喜びを反映していそう。

ひかり浴び 汗がしたたる 七頭舞

〔板橋区四年〕内藤 瑞希

講評 身近な文化「七頭舞」への思いが伝わり、作者の小さな誇りも見えてきそう。

抱きしめる 前じゃできない 幸せさ

〔板橋区五年〕田辺 莉妃愛

講評 恥しさを感じるのは成長の証。自己の内面が一句として描かれるのも川柳です。

学校の 子の失敗も 肴とす

〔世田谷区保護者〕堀切 克洋

講評 嬉しい一句。こんなご両親、関係者なら、伸び伸びと成長が出来そうです。

知恵しぼり ワイワイ作る 広報誌

〔板橋区保護者〕かねとも

講評 楽しそうですね。シゴトも義務と思うと面倒ですが、いい仲間の存在が救い。

お風呂から 聞こえる校歌 母覚え

〔あきる野市保護者〕3人娘のママ

講評 お子様も学校が好きで慣れ親しんだ様子。ほのぼのとした一句となりました。

高学年の部

一般の部

校長会特別賞

低学年の部

やきいもを わったしゅんかん 光出る

〔江東区三年〕りく

講評

やきいもを割った瞬間の ほくほくした温かさとおいもの黄色い鮮やかな色が表現されていて、目に浮かぶようです。

高学年の部

運動会 みんなの笑顔 よく見える

〔日野市四年〕片山 紗希

講評

コロナ禍では、マスクをしての生活でしたが、学校の様々な行事も通常の形で行えるようになってきました。運動会で生き生きと楽しむ姿を互いに感じ合っているよう様子が表現されていると思います。

都P特別賞

低学年の部

やっときた やすみじかんが こいしいよ

〔江戸川区二年〕高橋 すみれ

講評

日常の学校生活や勉強の中で忙しく過ごしていた小学生が、待ち望んでいた休みの時間がやってきたことへの喜びや安堵が感じられます。自由な時間が訪れることで、心が躍動する様子が伝わってきます。

おもちつき ペったんぺったん はずむ音

〔新島村一年〕徳竹 奏真

講評

「べったんぺったん」という音が鮮やかに表現されています。この言葉からは、おもちをつく作業のリズミカルな音や、その活気溢れる様子が伝わってきます。そして、「はずむ音」という言葉からは、その音が空気中に響き渡り、楽しみながら子供たちが一緒に集まって楽しく作業に取り組んでいる様子が想像されますね。

高学年の部

待ちわびた くだらぬ話で 大笑い

〔世田谷区五年〕永見 陽彩

講評

コロナ禍の中で、子供たちも多くの変化や制限に直面しましたが、それでも笑顔を見失わない子供ならではの無邪気さや純粋さも感じさせてくれます。この川柳を通して、子供たちがどれだけ強く、前向きな姿勢を持っているかを垣間見ることが出来ます。

小4で はじめて遠足 むねはずむ

〔世田谷区四年〕サラダ

講評

遠足という子供たちにとって特別なイベントの制限が緩和された時、彼らの胸が高鳴る喜びや期待が表現されています。この川柳は、子供たちの純粋な喜びや楽しみ、そして普通の日常が戻ってくることに心の高揚感を伝えています。遠足という特別な日を取り戻される事によって、子供たちの心が躍動し、興奮する姿が浮かんできます。